【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成19年1月25日(2007.1.25)

【公開番号】特開2001-154759(P2001-154759A)
【公開日】平成13年6月8日(2001.6.8)
【出願番号】特願平11-340205
【国際特許分類】
Ｇ０６Ｆ　1/16　(2006.01)
Ｇ０６Ｆ　3/00　(2006.01)
Ｇ０６Ｆ　15/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０６Ｆ　1/00　３１２Ｋ
Ｇ０６Ｆ　3/00　Ｃ
Ｇ０６Ｆ　15/02　３０１Ｅ
Ｇ０６Ｆ　15/02　３０１Ｆ
Ｇ０６Ｆ　1/00　３１２Ｖ
Ｇ０６Ｆ　1/00　３１２Ｆ

【手続補正書】
【提出日】平成18年11月30日(2006.11.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】　情報処理装置本体と情報処理機器とが互いに接続されるようにした情報処理装置において、
上記情報処理装置本体および情報処理機器の一方はユニットに一体的に収容され、このユニットにその一端側を支点にして見開き可能に開閉する蓋体が設けられている一方、
上記情報処理装置本体および情報処理機器のうちの非ユニット側となる他方は、上記ユニットの蓋体を開放した際に露呈する露呈部分に着脱可能に装着され、この装着状態で、上記情報処理装置本体および情報処理機器のうちのユニット側となる一方に対しケーブルレスで信号が送受信されるように直に接続されていることを特徴とする情報処理装置。
【請求項２】　情報処理装置本体とキーボードとが互いに接続されるようにした情報処理装置において、
上記キーボードはキーボードユニットに一体的に収容され、このキーボードユニットにその一端側を支点にして見開き可能に開閉する箱状の蓋体が設けられ、
上記情報処理装置本体は、上記キーボードユニットの蓋体を開放した際に露呈する蓋体の内部に着脱可能に装着され、この装着状態で、キーボードに対しケーブルレスで信号が送受信されるように直に接続されていることを特徴とする情報処理装置。
【請求項３】　上記キーボードは、情報処理装置本体を蓋体の内部に非装着とした状態では蓋体の閉塞によって蓋体の内部に格納されるようになされていることを特徴とする請求項２に記載の情報処理装置。
【請求項４】　上記蓋体を開放した際に露呈するキーボードユニットの露呈部分には携帯電話の底部が着脱自在に装着され、この装着状態で、情報処理装置本体およびキーボードに対しケーブルレスで信号が送受信されるように携帯電話の底部のコネクタが直に接続されており、
上記蓋体を開放した際に携帯電話を装着するキーボードユニットの装着部は、キーボー

ドユニットに対し回転自在に支持され、この装着部に装着された携帯電話をキーボードユニットまたは蓋体に対し接触させることによって回転規制されていることを特徴とする請求項２に記載の情報処理装置。

【請求項５】　上記キーボードユニットの装着部の回転方向２箇所には、互いに種類の異なる２種類の携帯電話のコネクタをそれぞれ着脱自在に装着する装着口が設けられ、

２種類の携帯電話は、この装着部をキーボードユニットに対し回転させることによって各携帯電話のコネクタとそれぞれ合致する装着口に交互に装着され、それぞれ情報処理装置本体およびキーボードに対しケーブルレスで信号が送受信されるようになっていることを特徴とする請求項４に記載の情報処理装置。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】

しかも、キーボードを、情報処理装置本体を蓋体の内部に非装着とした状態では蓋体の閉塞によって蓋体の内部に格納するようにした場合には、キーボードユニットと蓋体とは、情報処理機器の非装着時に蓋体の閉塞によってキーボードを蓋体の内部に格納しつつ薄く折り畳まれて持ち運びに便利なものとなり、キーボードの携帯性をより向上させることが可能となる。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】

また、蓋体を開放した際に露呈するキーボードユニットの露呈部分に携帯電話の底部を着脱自在に装着し、この装着状態で、情報処理装置本体およびキーボードに対しケーブルレスで信号が送受信されるように携帯電話の底部のコネクタを直に接続するとともに、蓋体を開放した際に携帯電話を装着するキーボードユニットの装着部を、キーボードユニットに対し回転自在に支持し、この装着部に装着された携帯電話をキーボードユニットまたは蓋体に対し接触させることによって回転規制した場合には、携帯電話は、蓋体を開放した際に露呈する装着部（露呈部分）に中継部品や専用コネクタなどの付設器具を用いることなく装着され、情報処理装置本体およびキーボードとケーブルレスで直に接続される。このため、携帯電話の携帯時に付設器具を一緒に持ち歩く必要がなく、携帯電話の携帯性を図ることが可能となる。しかも、付設器具に頼らなくとも、一般の携帯電話の底部にコネクタが予め設けられていることから、専用の携帯電話でなくとも一般の携帯電話を接続することが可能となり、情報処理装置本体およびキーボードに対し接続可能な携帯電話の汎用性が飛躍的に図れる。また、キーボードユニットに対し回転自在な装着部に装着した携帯電話がキーボードユニットまたは蓋体に対し接触させることによって回転規制されるので、情報処理装置を屋外で使用する際に携帯電話を安定した状態で支持することが可能となる。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】

さらに、キーボードユニットの装着部の回転方向２箇所に、互いに種類の異なる２種類の携帯電話のコネクタをそれぞれ着脱自在に装着する装着口を設け、２種類の携帯電話を

、装着部をキーボードユニットに対し回転させることによって各携帯電話のコネクタとそれぞれ合致する装着口に交互に装着し、それぞれ情報処理装置本体およびキーボードに対しケーブルレスで信号を送受信するようにした場合には、２種類の携帯電話が装着部の各装着口にケーブルレスで適宜装着され、情報処理装置本体及びキーボードに対し接続可能な携帯電話の汎用性がより拡大される。しかも、種類の異なる携帯電話に見合った装着口が装着部の回転によって容易に変換され、各装着口に対する携帯電話の交換操作を容易に行えることになる。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２９】
すなわち、本実施形態では、図５～図９に示すように、箱形蓋部３の開放時に外方に露呈するキーボードユニット２の左側端部（露呈部分）には、携帯電話４を装着する装着部としてのブロック状の装着片２３が設けられている。この装着片２３は、キーボードユニット２の左側端部に回転ヒンジ２４を介して回転自在に支持されている。そして、装着片２３の周方向一側面（図６では上面）には、携帯電話４の底部の雌端子４１（コネクタ）を係脱可能に係合する装着口としての係合口２３ａが突設されている。

【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３８】
すなわち、本実施形態では、図１３に示すように、装着片２５は、その右側面中心位置において回転ヒンジ２４を介して回転自在に支持されている。そして、装着片２５の周方向一側面（図では携帯電話４側面）には、携帯電話４の底部の雌端子４１を係脱可能に係合する装着口としての係合口２５ａが突設されている。また、装着片２３の周方向他側面（図では反携帯電話４側面）には、簡易携帯電話（図示せず）の底部の雌端子（コネクタ）を係脱可能に係合する装着口としての係合口２５ｂが突設されている。

【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４８】
また、蓋体を開放した際に露呈するキーボードユニットの露呈部分に携帯電話の底部を着脱自在に装着し、この装着状態で、情報処理装置本体およびキーボードに対し付設器具を用いることなくケーブルレスで携帯電話の底部のコネクタを直に接続することで、携帯電話の携帯性を図ることができる。しかも、付設器具に頼らなくとも、一般の携帯電話の底部にコネクタが予め設けられていることから、一般の携帯電話を接続可能とし、この接続可能な携帯電話の汎用性を飛躍的に図ることができる。また、キーボードユニットに対し回転自在な装着部に装着した携帯電話をキーボードユニットまたは蓋体に対し接触させることによって回転規制するので、情報処理装置を屋外で使用する際に携帯電話を安定した状態で支持することができる。

【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４９
【補正方法】変更

【補正の内容】
【００４９】
さらに、キーボードユニットの装着部の回転方向２箇所に、互いに種類の異なる２種類の携帯電話のコネクタを装着する装着口を設け、情報処理装置本体およびキーボードに対しケーブルレスで２種類の携帯電話を交互に接続可能とすることで、情報処理装置本体及びキーボードに対し接続可能な携帯電話の汎用性をより拡大することができる。しかも、種類の異なる携帯電話に見合った装着口が装着部の回転によって容易に変換でき、各装着口に対する携帯電話の交換操作を容易に行うことができる。